

湖山池における塩分濃度、水門管理の状況について

平成25年6月7日
水・大気環境課
河川課

1 湖水の塩分濃度等

- 将来ビジョンに基づき、平成24年3月から汽水湖化に取り組んでいるが、塩分濃度の上昇を踏まえ、湖山池漁業協同組合と協議のうえ、新たな水門操作に本年5月23日から着手した。
- この操作は、塩分濃度に加え、テレメーター化による溶存酸素(DO)の連続観測などにより、湖内の貧酸素化を監視しながら、よりきめ細やかな操作で、塩分抑制を図るもの。
- 青島大橋の塩分濃度は、6月5日現在、約7,500mg/L。(前年度の最高レベル 約7,400mg/L)



2 水門管理

- 池から海へと河川水が流れる順流時（水位 海<池）は、全ての水門を開放しているが、海水が池へ流入する逆流時（水位 海>池）は、「船通し水門」を部分開放して、海水の遡上を抑制している。（水門管理人が常駐管理（AM6～PM8時））
- 湖山池、湖山川の流動を確保し、貧酸素を回避するため、「船通し水門」の部分開放は、川底から10cmを最低限の高さとして、全閉はしない。
※部分開放は、水深の浅い水域（シジミ等の生息箇所）が貧酸素とならないよう溶存酸素のモニタリングを強化しつつ、段階的に行っているところで、6/6現在、顕著な貧酸素化は確認されていない。
※全開（約200cm開）→100cm→80cm→60cm→40cm→20cm



川の流れ ⇒	順流時	逆流時
第1樋門	開放	閉
第2樋門	開放	閉
船通し	開放	部分開放

